

校長室だより No. 24 4月8日(水)

情報教育の「中心校」から「先進校」へ(1学期始業式)

緊急事態宣言が昨日出され、日本中、世界中が新型コロナウイルス感染症への対応に追われるまさしく非常事態に突入しています。幸いにも本校では新学期の始業式を迎えることができましたが、「対岸の火事」として傍観するのではなく、感染を広げないため今できることをしっかりやろうと生徒に呼びかけることから話を始めました。

* * * * *

現在のような動乱期、混乱期には「何が本当に大切なのか？」というような物事の本質が明らかになってきます。「不要不急の外出は禁止」というときにじゃあ「必要、緊急なこと」は何なのか？学校が休校で行けないときに「自分は学校に何を求めているのか？」などこれまで考えることがなかったことを考える機会となっている。それによって、この騒ぎが治まったときには人々の「価値観」や「社会の在り方」が大きく変わっていることが予想されます。

例えば仕事の面で盛んに叫ばれている働き方が「テレワーク」です。今後は確実に在宅勤務という形態が増えてくることは間違いありません。また、全国的な学校の「休業措置」で注目され、定着しそうなのが「Web授業」などのネットでの学習。それを普段から行っている通信制の高校もクローズアップされました。

Web授業を実施する通信制高校は「学校に行かなくて良い」わけですから、一見楽そうに思いますが、実際はその逆で「主体的」に学ばないと単位も取れない、卒業もできないということになります。今後、目的を持ち、自ら主体的に学ぼうとする人にはネット学習などの効率よく学ぶ機会が増え、やらない人(やらされるだけの人)との格差はどんどん広がっていくでしょう。君たちはどちらを選びますか？

今年、情報科学高校はめざす学校の姿として「**情報教育の中心校から先進校へ**」というスローガンを掲げました。これまでも情報ITフェアやPBL方式インターンシップ、Rubyの全員履修など先進的な取り組みを行ってきましたが、今後は個人のタブレットやパソコンあるいはスマホなどを活用した学びも検討し、積極的に導入していきたいと考えています。

さらに今年度は文部科学省の「**地域との協働による高等学校教育改革推進事業**」のプロフェッショナル型という3カ年の事業の認定を受けました。今年度のプロフェッショナル型の全国での認定はわずか4校ですので、大変名誉なことです。

この事業の本校でのテーマは「**地域との協働を通じたデジタルイノベーション創出人材の育成**」です。安来市や企業と連携したよりリアルな課題解決型の学習を展開し、テクノロジーを自在に操り、地域の問題を解決できる人材育成を目指した取り組みを行っていきます。具体的にいうと、君たちが将来企業などに勤めたときに、情報科学高校で学んだ知識をもとに「こうしたらもっと良くなるんじゃないか？」と課題意識を持ち、それを解決し、周りの人と協働得しながら実行できる人を育てていくための教育課程を研究し、実施していくというものです。

そこで、前提になるのは君たちの「主体的に学ぶ姿勢」です。先ほどもいいましたが、これからの社会は「学ぼう」という意欲を持っていればいるほど学び、成長することができる社会になります。

学校をより良くするための枠組み、例えば今回の文部科学省の研究指定などは教職員が頑張って取り組んでいきます。しかし情報科学高校が真に「**情報教育の先進校**」と呼ばれるためには君たち生徒自身の「主体的な姿勢」が欠かせません。

今、こうやって普通に学校生活を送れていることを感謝し、自分のやりたいこと、そしてやるべきことにしっかりと向き合う一年になることを期待します。